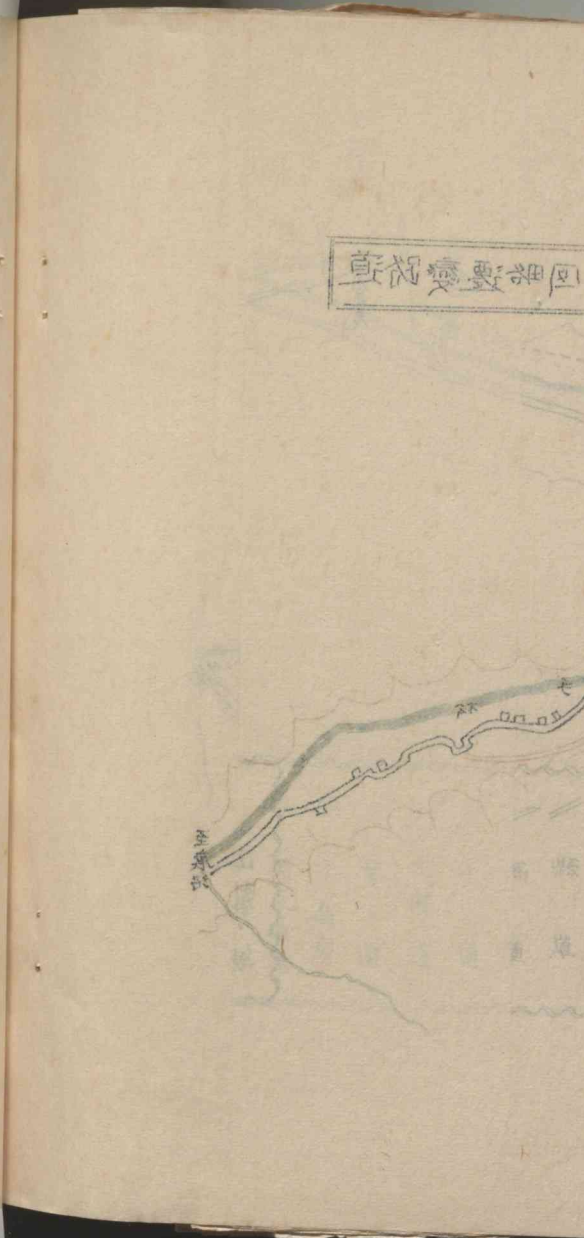
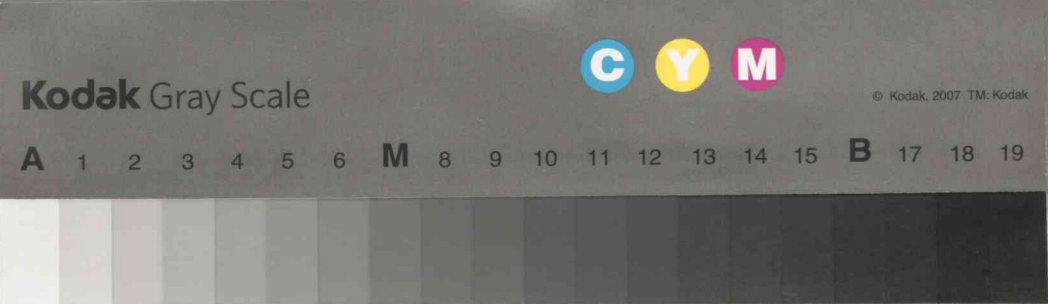
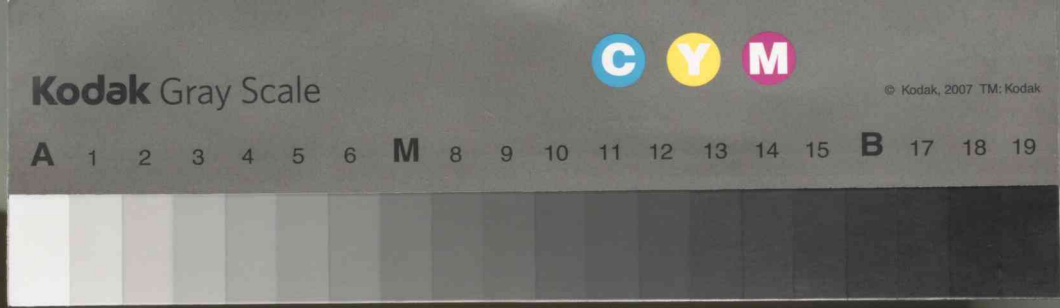


492 西大芦地区 西大芦小学校所蔵資料







一九三二年 六月十五日

論の非難されるだらうが免に角讀んでくれ、私の無上の満足です。

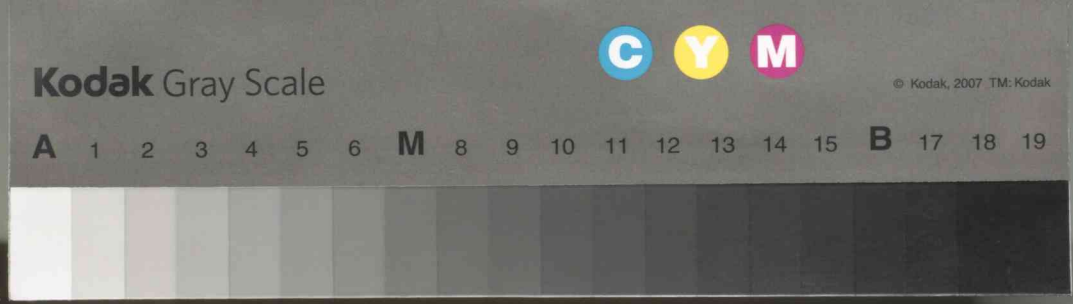
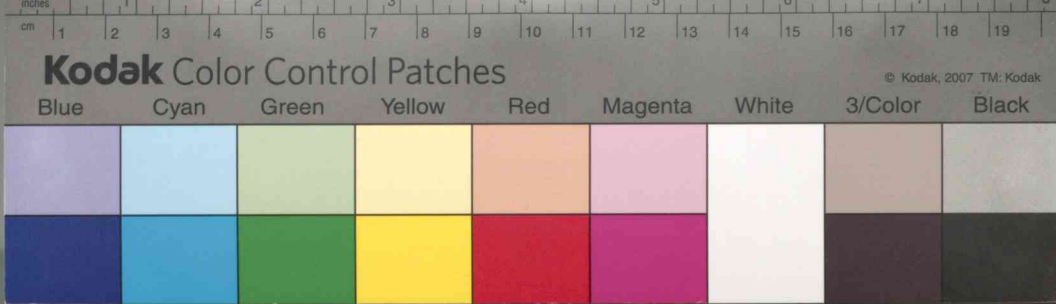
私としては煙草の嗜好から斯ういふ方面には無関心であり、否、考へて見
たところでは纏つた意見の持主でないが問はるゝまゝに自分が抱懐して居
る愚論をのべて見らう。すべては淺薄なる知識にとりて想像に過ぎない。衆
の論と非難されるだらうが免に角讀んでくれ、私の無上の満足です。

一九三二年 六月十五日

郷土発展策を論ず

N・A・生





序

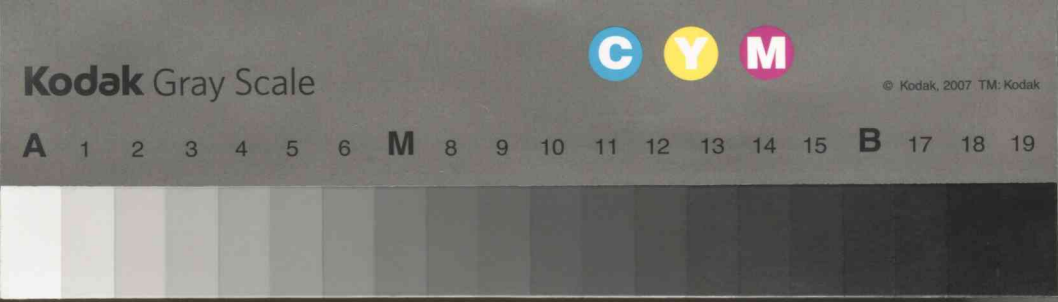
郷土發展策を論ず

N · A · 生

ダーウヰンは生物の進化を説いた。スペンサーは宇宙の進化を説いた。
 宇宙の森羅萬象何一つとして進化変遷せぬものはない。郷土の發展を
 愛郷土愛の觀念は人生萬古不易共通の理ではあるまいか。郷土の發展を
 節の情は誰しも持つところであり、優勝劣敗適者生存の原理は何時
 の代いかなる處でも實現せらるゝ。やして社会は改善發展を遂げつゝあ
 りも係らず昔ながらの旧套と行動を捨てない。此際、時に思想動搖しや、
 衣食足りて禮節を知ると云ふ。今や民衆は生活に陥り又何を論ぜんや、
 十は過激の言動を爲す者あるにいたる。此際、時に思想動搖しや、
 の生活安定第一義として努力の施設を忘れてはならぬ。
 本村の教育界では今回郷土地誌を編纂するにあたり郷土發展策を私に尋
 ねられた。私としては煙草の如く斯く云ふ方面には無関心であり、否、考へて見
 たところでは纏つた意見の持主でないが、問題は、自らが抱懐して居
 る愚論をのべて見せたい。すべしは淺薄なる知識に於ける想像に過ぎない。安
 論と非難されるにあらうが兎に角、これば私の無上の満足です。

一九三二年 六月十五日

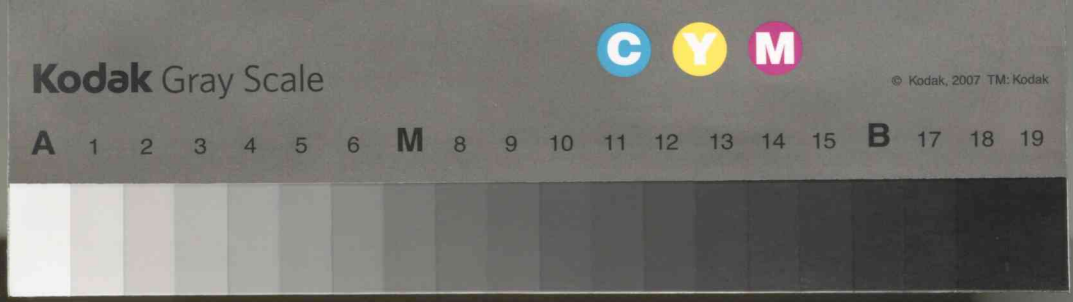




△ 科学的に見たるこの村
 うなぎの産地やうなぎの村山林何町まで立本の種類は何
 村の戸数人口がいくら結局一人当り何程と云ふことが村の繁栄と食
 弱と云ふことに重大なる関係あり従つてこの天與の地勢に則りて發展策
 を講ずるの論議であるが今こゝでは速に限りてこの世間並に電燈
 電話警察電話の設けあり公衆電話は今企劃中自動車等の文明の恩澤に浴
 して居ること表面は村が立派に見えるがやがて本村の経済に如何に及ぼ
 すかは後に述べるとして農家の構造、桑畑等より見て養蚕なることは一日
 瞭然、茶の木もあり又茶の製産地に適するだりよとの想像もつく、沿道
 の数多き商家否商家と言つても別に商品もなく客を待つ風情もな
 の中途半ばの商家風の家屋の多きは何に原因するか、東に
 尋常小學校、西に西校、共に廣大なる校舎にいづこより児童が集るの
 かと思はれやう、中央に高等科併置するに農業補習學校青年訓練所等、
 この貧弱山村にこの教育機構、其の經費の支辨はいかにして、凡てはイン
 タロゲレシオンマークである。
 数年前までは古峯神社に参拜の道者群三五々こちりの店あちりの茶店
 に睡かけて憩ふて居るのを見た、何程かの茶代辨当料を又古峯原やうかん
 を購ひて行くのを見受けたが今は自動車で砂煙をふき立てて顧み暇もな
 い有様だ。
 こんな山村にまでスピード時代を遠感なく發揮する。

目次
 科学的に見たるこの村
 一、 哲学的に見たるこの村
 二、 發展策
 A、 積極的發展策
 B、 消極的發展策
 四、 結論





横根山から湧き出る泉、里の田圃の親とならぶ。と大芦小唄の大芦川の清
 き流れ、やがて大芦名物香魚の本場となるべく青年團や漁業組合の折角努
 め中である。

△ 哲学的に見たるこの村

山 林

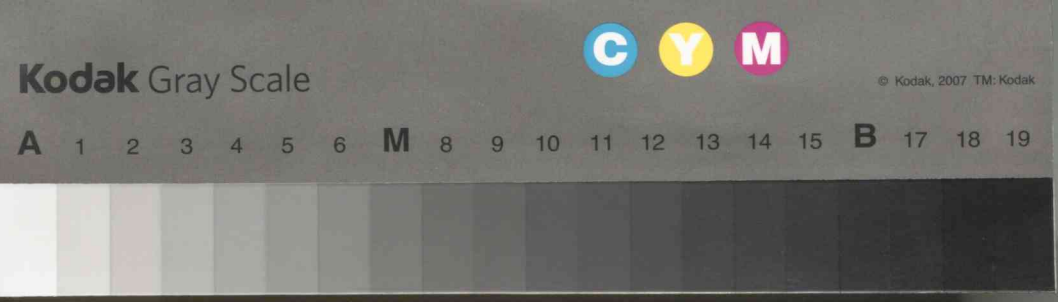
村有	官行	縣有	私有	他村所有	計	畑	田
二、四八三	一、七〇六	八、〇六六	三、九一〇	七、八八四	二、三〇三	三、〇四九	一、一六二
八、〇六六	一、七〇六	三、九一〇	七、八八四	二、三〇三	三、〇四九	一、一六二	八、〇六六
二、四八三	一、七〇六	八、〇六六	三、九一〇	七、八八四	二、三〇三	三、〇四九	一、一六二

大正九年の調査によると本邦には五反未満の耕地所有者二、四四一、一五六
 戸あり又約四百五十万戸の全然寸土も持たぬ者一三、一戸にして五反未満の所有
 者一七、六戸あること表の如し。農村を以て自任するこの村は、この不足す
 る有様で他は、このとどろく鹿沼町より購入するの甚だしきは、この山村
 に居りながら八百屋商人の持ち來る野菜を買ふもの多しありとは想像も
 及ばぬであらう。

以上の如き状態にて純然たる農業のみにて生活し得るものは無くして年
 々何程かの山林を伐採して不稼を補ふもの約六十戸半農半労働約二百五
 十戸其の他の百七十戸は全然労働のみにて生活するものなり。而も高工
 業の復興がその村の労働として主として木材の伐採と搬出、薪炭製造
 業にて担つて如何せん。

数多き沿道の商家風の家庭はまとして古峯、原道者を目標として成立しな





以上昔人は皮相なかり本村の外観及び内容を大體を論じた。之れに照準
 して發展策を講ずるは勿論である。而して政策上消極的と積極的との二
 区分して推論せしむ。例へば消極的とは現在の施設機構を改めず根本より立て直しをす。一方
 積極的とは是に改善を加へ更に時世に順応し郷土に即する施設を加へ
 うす兩々相持つて大成せらるべきであらう。

△發展策
 新渡戸博士の土地分配の狀態より區別せらるる所謂小の小農に属する農
 村にして商工業として見るべきものなく唯一の複業たる養蚕業の不況加
 ふるに木材薪炭の廉價等このまゝにて行くならは到底生かす途なきは
 あまりにも明白な年々膨張する生計費諸公費とくに教育費に於て村民
 は悲鳴をあげるであらう。昔石油ランプの時代男は藁細工女はモ、引ワ

△消極的發展策
 ラゲが何等の夜業をした。分業の発達と共にゴ、細工の妙を得て而も廣
 價に購買し得る今日斯も夜業もなすもの殆んどなく、独り賤々として電燈
 の輝くのみ、電燈料を産み出す夜業なしとは嘆息。
 成算なくして又將來を慮らずして計畫せられたる事ありとすなりは此
 の際情實や旧套を脱却し奮然として改善すの要ありとすなりは此
 縮少するは時代に逆行する憾ありと民も所謂伸んがための縮むは止む
 得ないであらう。これゆへは排撃すべき主張ではない。例へば夜業を
 電燈料をいれればこれゆへは排撃すべき主張ではない。例へば夜業を
 拾銭全村一牛燈として七、八ヶ月々電燈料を社へ支払ふ。村經濟上實に恩恵
 せざるべからざる大問題なりと主張する論客がある。村經濟上實に恩恵
 又學校問題を拉致來りて全村一校主義を主張するものあり一方には中央
 備置校にして東西を分敷場となし虎も列國の平和會議の寺前準備を縮少
 するが如く見えて内容を充實する方が經費を軽減して而も有効なる教育
 を爲し得るなりと論ずるものあり。吾人はこの説に敬意を拂ふ程同感
 なるものにして既に現行校舎改築前に絶叫したるところであつたが近視眼
 者は遠眼者より教員を多くして遂にき等の主張は華られて今日の如き結果と
 たり今にして思へば轉々感懐に堪えざるものがある。

又不自然に生じたる沿道の商家は今も完全なる労働者として從來の労働
 者として悲境に陥らしめつゝあるが元來本村の如く出店とか分家とか云
 ふもの、数多きところは他に餘り見られぬ状態である。





指導者現はれよ然らば救世主の如く尊敬せらるべし又奮起せ青年達青春
 の意気燃ゆる元氣旺盛の時期遠く海外に志せよ。思考するに當然やか
 刺せりるるだり村是は海外移住海國進取の氣風を呼吹指導するに相
 違あるまい。重複の嫌ひあれども敢て言ふ。本村が發展せす寧ろ退嬰
 の姿勢にあるは耕地狭くして商工業なく戸数人口の多きによるなり。而
 も法は任居の自由を保証すると僅も理想としては三五〇多くと四〇〇
 へも超過する時はそれ此に應じて適當なる副業を發見經營せねばならぬ。

△積極的發展策
 教育會ではよく郷土に即したる教育と云ふことを耳にする。元來郷土に
 可なりと云ふことははしく簡單なることなりや。又教育者のみにより
 へは何人によりて郷土に即するに云ふ重大なる事項を定め得るや。忌憚
 く言へば類々更迭する教育者に郷土に即するに云ふ運前のもとの直ち
 一教育に任じ得るの準備ありや。又村統治者として云ふ村民をして内的外
 心に發展せしむる方向を指導する方法をあなかもアークライトの如く村
 へは郷土に即する問題指導方針を抽象的にもせしむるにせよ。村統治者
 からは社会に飛躍する大人物を出さずとも薩長士の如き偉人の後輩を尊
 べバツクも郷土も統治者と教育者の指導方法よろしきを得ん望んで獲ら
 れざることもなからん。思ふに郷土に即したる教育とはこの狭隘なる郷土

にありても失業せず又海外へ發展すべく遠大なる精神を養成し指導し
 こゝ眞に生きたる教育なりん。勿論小青年には其の意をくみ
 次は産業開發につきて。

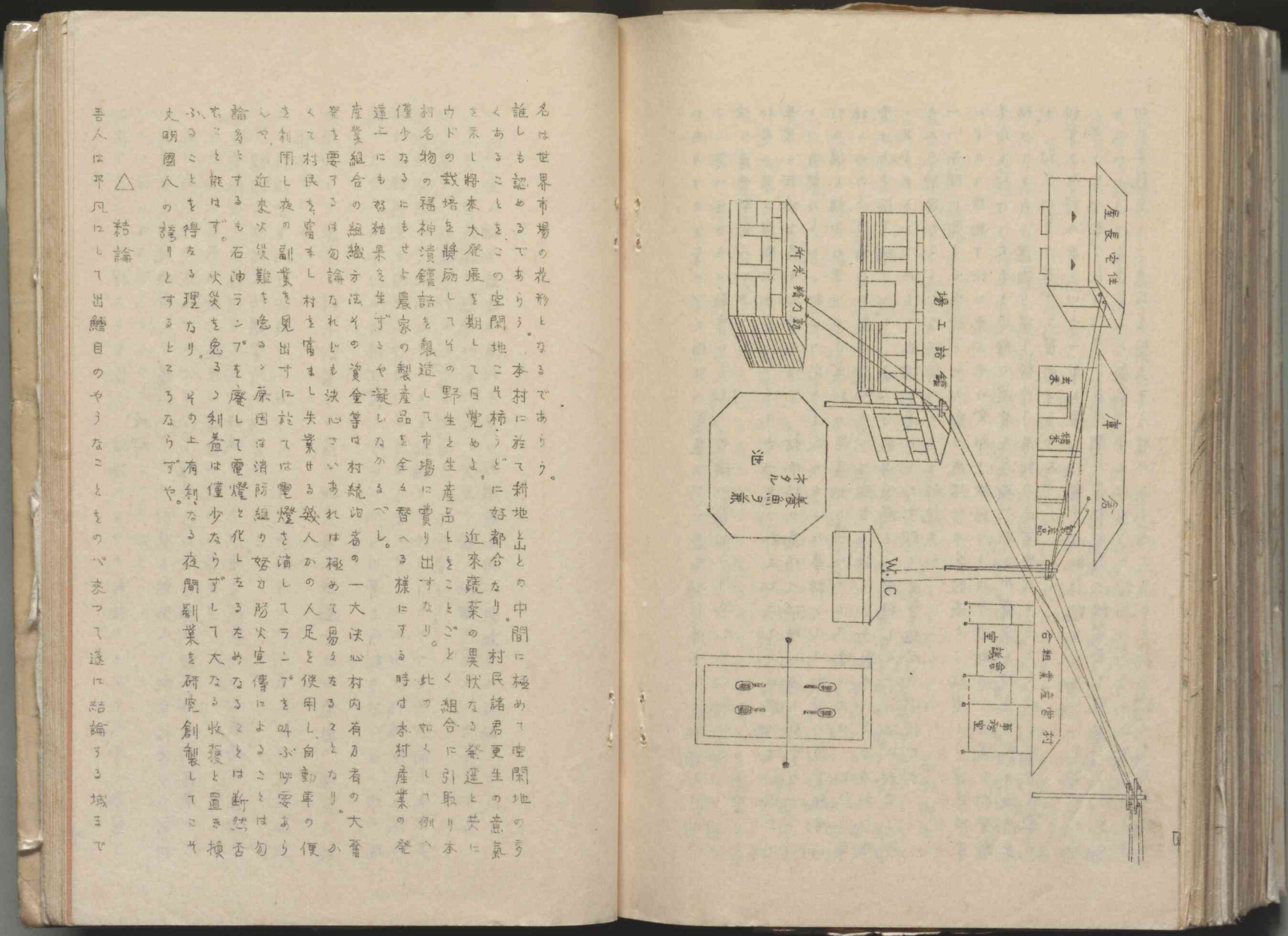
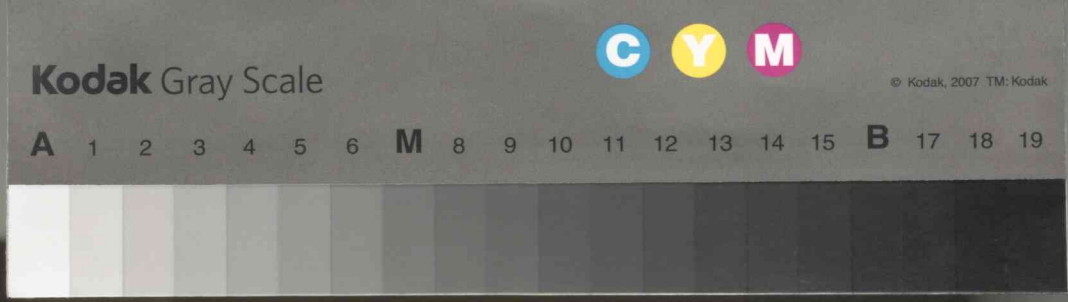
村是に基き強制的のやせしめて地地の一部及び凡の空閑地を利用して
 果實の栽培を最も必要と信ず。就中柿の栽培は地味に適し副業の一つと
 して有望なりん。村中一定の方式のもとに柿として村營の産業組合に
 引き渡し組合の手により本村の名産物の一つとして賣り出す。此より年
 柿のみならず村田の製産物はすべて組合に渡して手数をばぶき有利に販
 賣する方法を講ずべし。吾人は數年來最も必要視し心こめて研究しつ
 りありたることにして本論の骨子となす即ち産業組合の開設なり。

吾人の腹案なるものを左圖によりて解説せん。

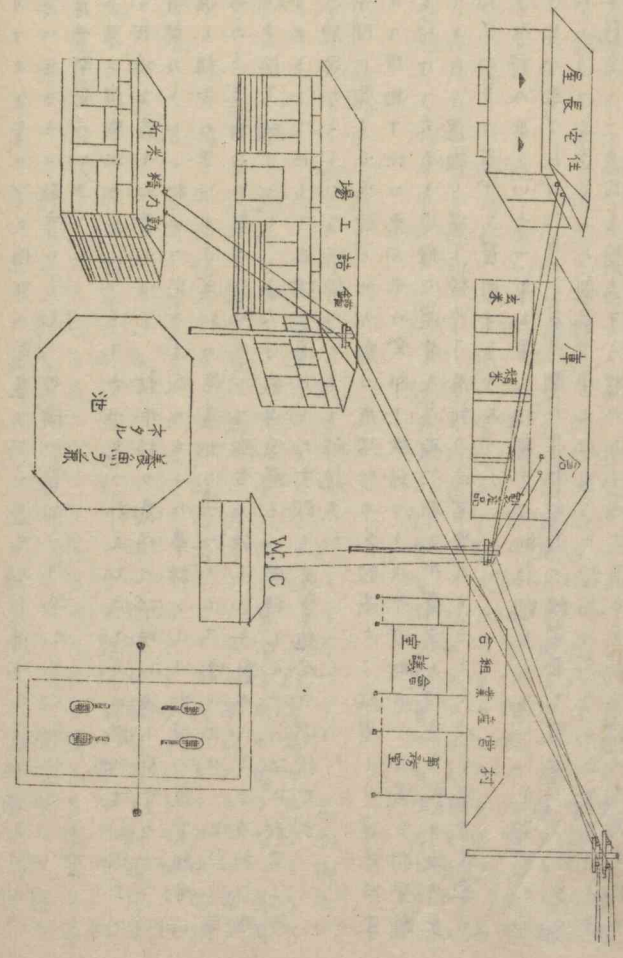
一、年間必要する米穀の約九割は鹿沼町の米穀商より購買して運送馬車
 によりて運搬す此の需用米の全部を供給するは不可能なりと云ふ村營精
 米所を設けて玄米を安價に運賃を低廉に而も小買者の便宜を計り夜の午
 間にも自ら運搬し得て極めて有利なる事業なることには今更贅言を要せ
 ず。村民双子を挙げて賛同するべし。

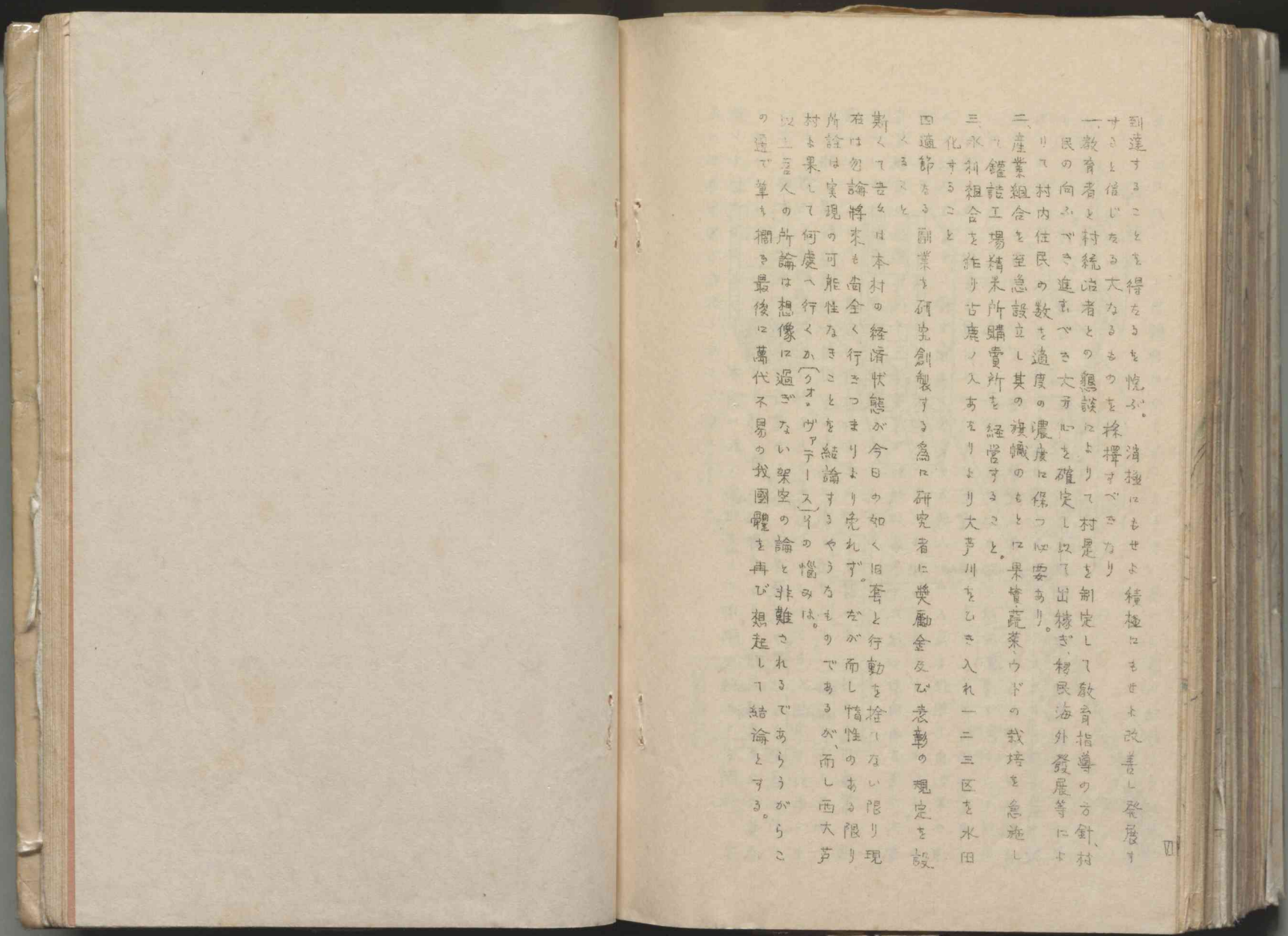
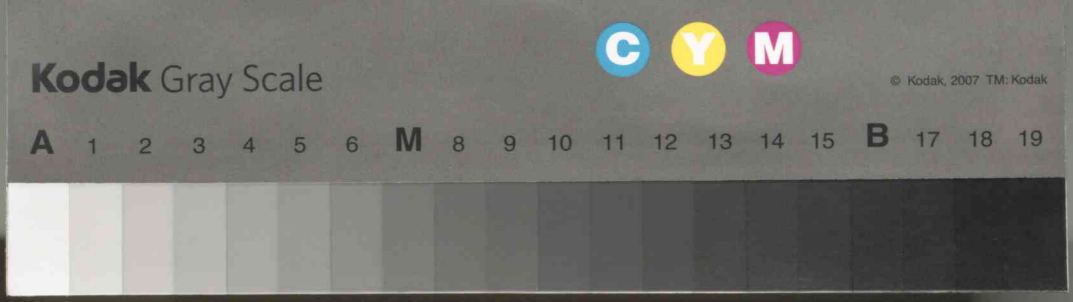
桃栗三年柿八年といふ一年も早く柿苗を分配移植せしめよ。急ぎても七
 八年十年を要すればなり。其の間柿樹製造の講習會を開催して一定の
 方式によりて製造せしめ製品の用ひは直ちに價格の多少を全ずるにより
 何れも競争して良品を製産する様になり西大芦の否枋木縣の名産柿の





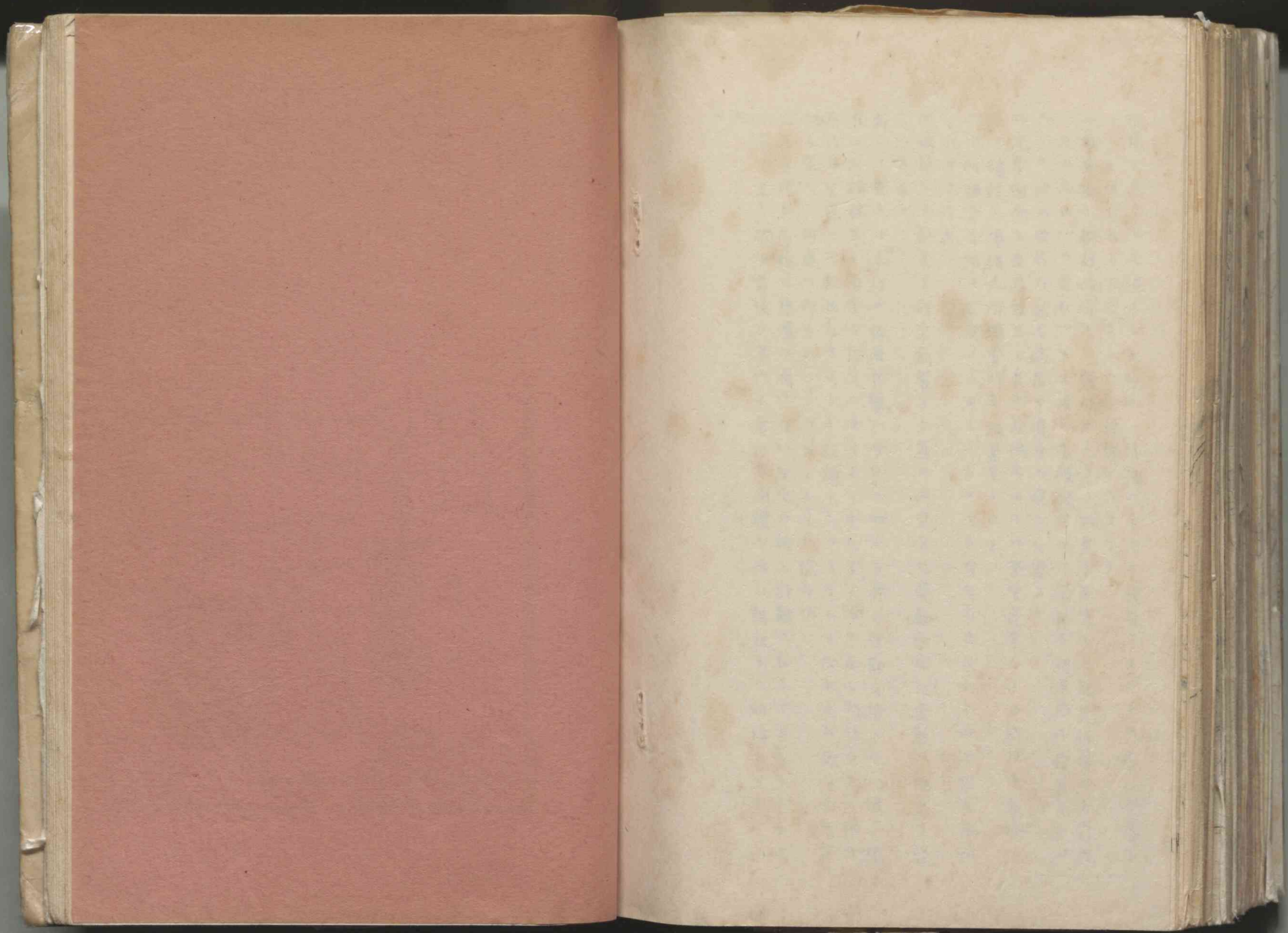
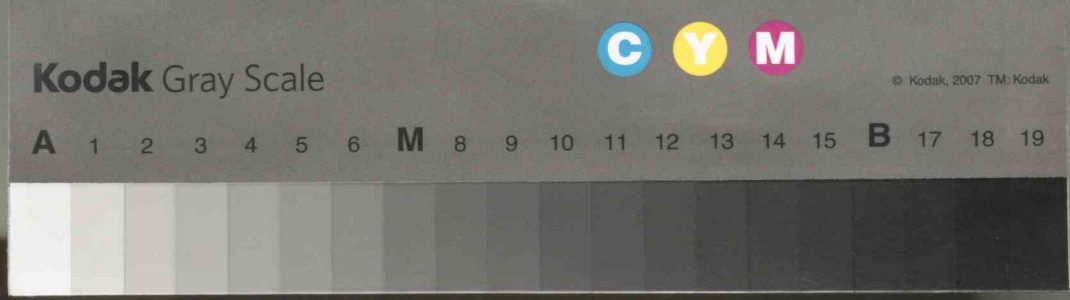
△ 結論
吾人は平凡にして出鱈目のやうなことをのべまづて遂に結論する域まで
名は世界市場の花形となるであり、
誰しも認めるのであり、本村に於て耕地と山との中間に極めて空閑地の多
くあることをこの空閑地を柿、うど、に好都合なり、村民諸君更生の意氣
を失し將來大発展を期して日覺めよ、近來蔬菜の異状なる發達と共に
内下の栽培を奨励してその野生と生産品とをことごとく組合に引取り本
村名物の福神漬饅頭を製造して市場に賣り出すなり、此の如く例へ
僅少なにもせよ農家の製産品を全々替へる様にす、時本村産業の登
達上にも好結果を生ずるや疑はなからべし。
産業組合の組織方法を資金等村統治者の一大決心村内有者者の大奮
闘を要すは勿論なれども決心されれば極めて易なることなり、か
くて村民を富まし村を富まし失業者を救ふは幾人かの手足を叫ぶ必要あり
を利用し夜の副業を見出すに於ては電燈を消してランプを使用し自動車
論者とするも石油ランプを廢して電燈と化し、省力防火宣傳によることは勿
論のことを得ず、火災を免るゝ利益は僅少ななり、大なる收穫と置き換
ふることを得る理なり、その上有利なる夜間副業を研究創製してこそ
大明國人の誇りとす、とすところなりや。





到達することを得たを悦ぶ。消極にもせよ積極にもせよ改善し発展
 することを得たるものを選択すべきなり
 一 教育者と村統治者との懇談によりて村是を制定して教育指導の方針、村
 民の向ふべき進まばべき大方向を確定し以て目標を、村民海外發展等に
 リて村内住民の数を適度の濃度に保つ必要あり。
 二 産業組合を至急設立し其の規模のものは果實蔬菜ウダの栽培を急進し
 三 鑑証工場精米所購買所を經營すること。
 三 水利組合を作り古鹿ノ入をよりより大芦川をひき入れ一ニ三区を水田
 化する事
 四 適節なる副業を研究創製する為ニ研究者に奨励金及び表彰の規定を設
 くる事
 斯くて昔々本村の経済状態が今日の如く旧套と行動を捨てない限り現
 在は勿論將來も尚全く行きつまりより先れず、なが而し惰性のある限り
 所詮は實現の可能性なきことを結論するやうなるものであるが、而し西大芦
 村も果して何處へ行くか(ラオ、ヴァテース)の悩みは、
 以上三人の所論は想像に過ぎない架空の論と非難されるであらうが、らこ
 の邊で筆を擱き最後に萬代不易の我國體を再び想起して結論とする。

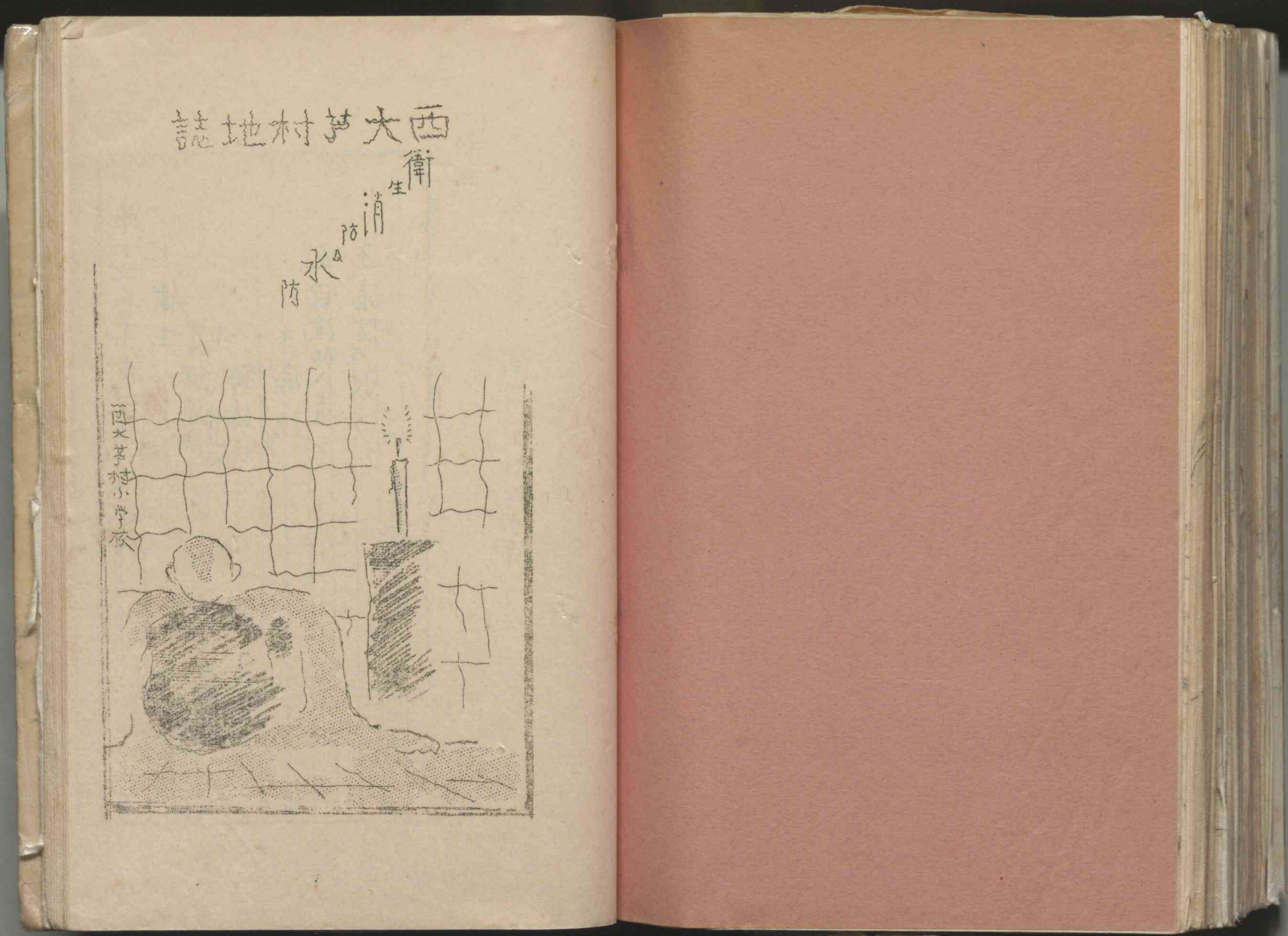
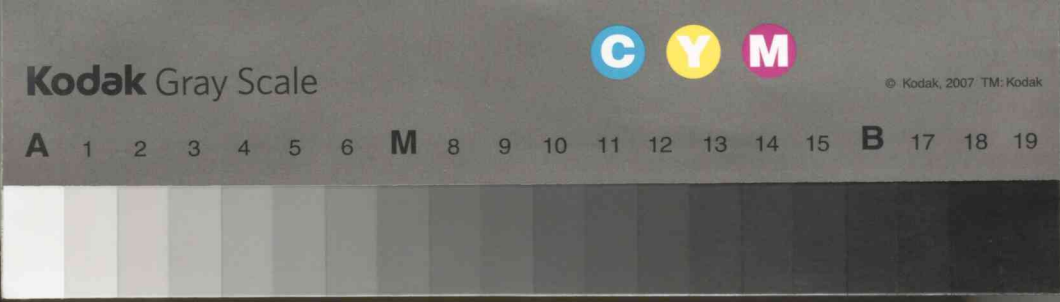




492 西大芦地区 西大芦小学校所蔵資料

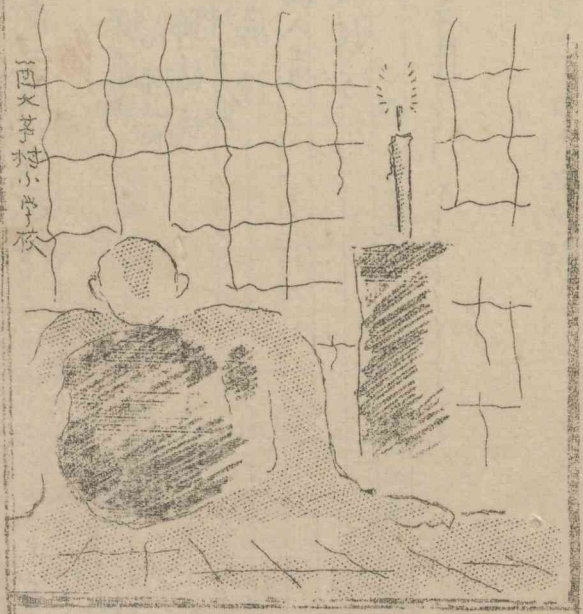
13





西大芦地区誌

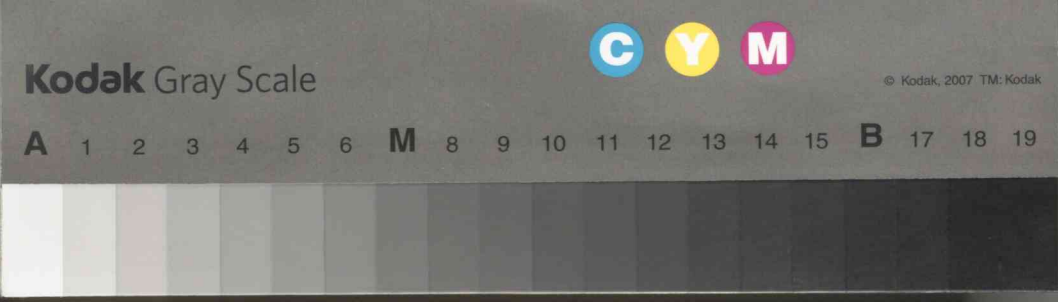
衛生
消防
水防



西大芦小学校

492 西大芦地区 西大芦小学校所蔵資料





I.

衛生

統計表備考

前記統計表に現レテハル如ク我面大芦村ノ傳染病ハ五ヶ年ヲ通ジテ
 勝算扶斯患者ガ僅ニ三人ニ尙テナシトイコトハ他ノ所ニ比シ又同
 地トシテハハルロシメテハ大ニ誇ルベシトモテハルコトハハル
 斯ノ王國ニハハルロシメテハ大ニ誇ルベシトモテハルコトハハル
 合カネシテハハルロシメテハ大ニ誇ルベシトモテハルコトハハル
 ヲ見込シ保少ノ患者ヲ出スノニテハハルロシメテハ大ニ誇ルベシ
 トテ下ラテハハルロシメテハ大ニ誇ルベシトモテハルコトハハル
 組合長ヲハハルロシメテハ大ニ誇ルベシトモテハルコトハハル
 本村ニ衛生思想普及ノ為ニ諸君ヲテハハルロシメテハ大ニ誇ルベシ
 本スタールパンフレット等ヲ作製シテ各戸ニクハリ又所々ニ貼
 西ハ學校トテハハルロシメテハ大ニ誇ルベシトモテハルコトハハル
 伝染病発生ナルトハ身ノ危候ヲモ顧ミテハハルロシメテハ大ニ誇ルベシ
 予防ニコレガ一切ノ仕事ニ當リ他ハ付添ヨ防カ一日モ早ク撲滅スベク
 付カスル共ニ心ヲハハルロシメテハ大ニ誇ルベシトモテハルコトハハル
 第二ハ天恵テテハハルロシメテハ大ニ誇ルベシトモテハルコトハハル
 毛大自炊ニハ及ブマレハハルロシメテハ大ニ誇ルベシトモテハルコトハハル
 コトガ出来マレハハルロシメテハ大ニ誇ルベシトモテハルコトハハル

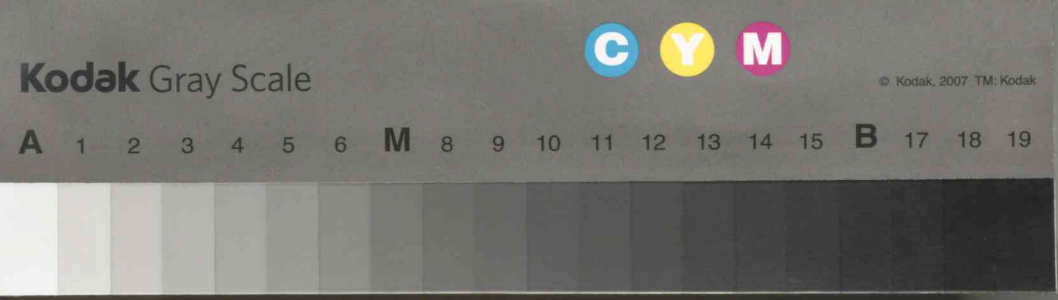
二 保険加入者調

会社名	加入者金額	加入者数	金額(單位圓)
第一生命保險株式會社	三	一	一五〇〇〇
三井生命保險株式會社	五	一	八〇〇〇〇
日本醫師共済生命保險株式會社	二	一	二〇〇〇〇
帝國生命保險株式會社	二	一	二〇〇〇〇
日華生命保險株式會社	二	一	二〇〇〇〇
福壽生命保險株式會社	二	一	二〇〇〇〇
有隣生命保險株式會社	二	一	二〇〇〇〇
明治生命保險株式會社	二	一	二〇〇〇〇
國光生命保險株式會社	二	一	二〇〇〇〇
日本生命保險株式會社	二	一	二〇〇〇〇
仁壽生命保險株式會社	二	一	二〇〇〇〇
計	四九	四	三三〇〇〇

因病院其ノ他

病	ナ	一	ナ
シ	ナ	一	ナ
師	ナ	一	ナ
人	ナ	一	ナ
シ	ナ	一	ナ
婆	ナ	一	ナ
シ	ナ	一	ナ
商	ナ	一	ナ
人	ナ	一	ナ
者	ナ	一	ナ
シ	ナ	一	ナ
醫	ナ	一	ナ
シ	ナ	一	ナ





II
 空氣ヤ氷ノカリモ透ラカナ本村ニ結核患者、アル理由ハ以上ノ如キデマル

一 本村、衛生状態
 本村ノ衛生状態ハ他ノ村ニ比較シテ劣ツテハナク、
 画ハ他ヨリ勝レテアルカモ知レナイ、コレ割合ニ他ノ村ニ比シテ、
 ニモ結核患者ノ割合ハ結果デアラズ。

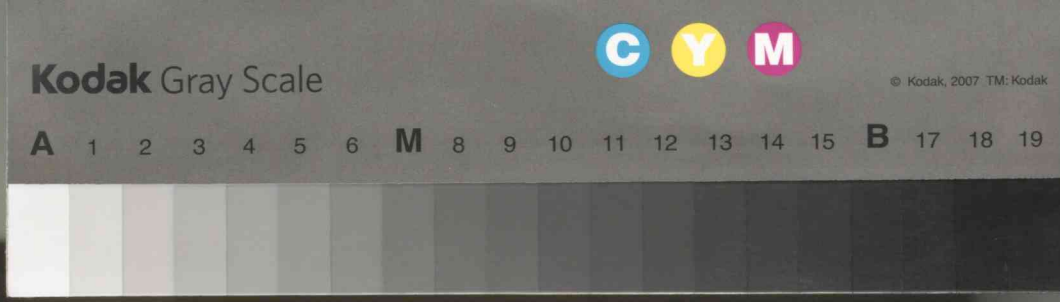
不衛生ノ衛生状態
 一般ニ衛生ノ建設ハ衛生ノ進歩ニ依リ、
 小便所アリ又納戸トイヒ少しモ汚染ノ入ラタラザリ、
 時ニ食物ヲ調理スル時、手洗ハ充分ナラザリ、
 シニスルガ多ク、衛生ノ上カキヤ、一番大切ナル所、
 デハルル風通シヨイ所、アラネハナラザリ、
 等ノ不衛生ノ不便等、金ニ違ヒテ、
 近々改良スルモ、アルハ、
 野菜ノ食物ハ、新築ナモ、
 近來ハ、衛生ニテモ、
 用フルコト、
 飲料水タタカハ、
 衛生ノ上、
 注意ヨリ加ヘタナラ、
 トヒニ、
 衛生ノ上、
 注意ヨリ加ヘタナラ、
 トヒニ、

花柳病モ本村ニハ割合ケシ、
 トラホー、
 人中一人ノ割合、
 イコト、
 肺結核、
 多クハ、
 高合上工場ニ、
 原族ノ者、

此ノ地ハ、
 等ノ不安、
 其ノ感、
 三ノ、
 何レト、
 割合、
 コト、
 トラホー、
 人中一人ノ割合、
 イコト、
 肺結核、
 多クハ、
 高合上工場ニ、
 原族ノ者、

此ノ地ハ、
 等ノ不安、
 其ノ感、
 三ノ、
 何レト、
 割合、
 コト、
 トラホー、
 人中一人ノ割合、
 イコト、
 肺結核、
 多クハ、
 高合上工場ニ、
 原族ノ者、





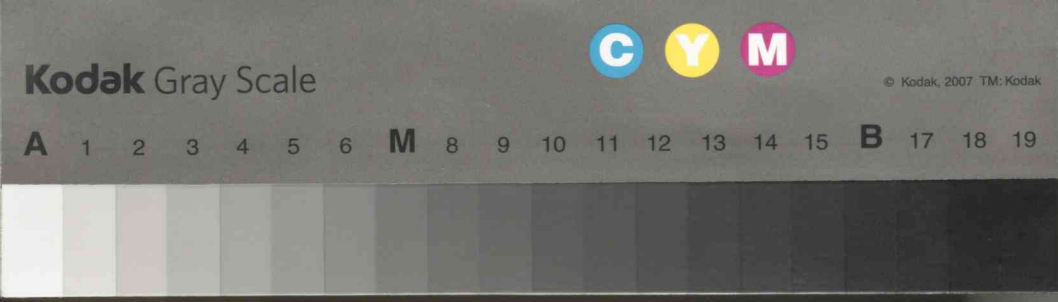
井ノ井戸ヨリ取ル水モ小汚ニシテ飲料水トシテ最モ適シテキル
 果庭衛生課ヨリ出張消毒師東枝・横井ヲ指シテ日々コンナ良
 イ水ハ本柴モモ少ナイテスナリ
 瀧井・礼殿等モ清潔ニシテ汚物ヲ行ヒ且ハ洗濯ニ宜シクテ不潔ヲモ
 ヲ用ユル水全ク少クテアル。小汚外モ割合ニ清潔ニシテ整頓カシ
 テキル。他村・花井・柳・摩埃・汚物等散乱シテ井ノ井戸ナリ。摩埃ハ
 小汚カラ離レタ可一足。坊前ヨリ各戸ニ設ケテ此處ニ捨テコトナラセハ
 汚物ハ各自方ノ山林ニ深ク掘リ共、中ニ埋没シテキル
 汚物別ニシテ衛生状態
 衛生状態ハ都落ニヨリテ大差ガアル。コレハ地勢・衛生程度其ノ他ニ
 関係アルコトデアルカラ一掃ニハ行カナイ。シカレ金銀ヲ費サス
 己ヤ摩埃・モノ、労力ニテ改善シテ得ルモノハ進ンデ改善シテ衛生
 的ナラレムベキデアル。例ヘバ、配水路、小便所ノ設ケ等ハ
 共ノ他者レバ多クアルコトアラウ。不衛生ナリ。高橋モ改分アルヤウニ
 思ハレルガ不衛生ヨリハ人ナリ。現デアルカラウヤニ改分ニ改メサレテ
 衛生的ニナルテアラウ。

八、公衆衛生状態
 公衆衛生モ年ト共ニ進歩シテ清潔ヲ防衛毒害ハ進ンデコレヲ行ヒ共
 日ニ比較スレバ全ク覚醒、感ガアル以テ公衆衛生ノ改善シタ時マデ
 注射ヲ施行シタ。ソノ際、役員ニ現病ヲ並ベ又留病ヲ以テコレヲ
 避ケントスルモ、昔々果今日ヨリテ見レバ、村トナリ。清潔ハヤキ
 ン、検査サレ通過スルコトヨク、採トスル人目ニシテハハルベク、潔
 ン得タトシテ、今日ノ村トコロ今日ノ村トコロ、皆田ヨリ受ケテモ、コレ
 ン後、物ヲ捨テハ、村ナラナラフ。

二、隔離療養ノ法
 此法三四年前村ニ赤痢流行シ四十名ニ近イ患者ト十名ノ死之者
 トヨクシテ、今日ノ病、恐ロシク之ガ防、勿クニナラナイコト一掃ニシ
 ヲコノタノ公衆衛生モ注意ヲ集フコトナリ。始メテ、畑川向ニ隔離
 療養ヲ進メ、コレヨリ改善シタ。昔々、赤痢ハ衛生思想全ク幼稚ニシテ、
 方法又消毒等、コレヲシカワラ、上ニ以テ、悪性ナリ、コレヲ進メ、
 又死者続出シ、市町村長並木佐一氏、医師藤野氏ヲ始メ、赤痢者一同
 村内、奔走シ、赤痢者ヲシテ、消毒多ク、火葬ニ至ルマデ、書夜度
 余ヲ志シテ之ガ撲滅ニ意盡シタ。村民又大イニ恐怖、狼狽シテ、家業
 モ手ニツカヌ。本村デアツタ。

昔、後、赤痢病舎ハ川向ニ、不便ヲ感シ、大正六年、赤痢、入リ、即チ現在ノ





四 種痘
 種痘ハ毎年四月ヨリ五月ニ至ル間ニ行フ。昭和六年ニ施行シタ公種
 痘ハ第一期 六十五名 第二期 八十八名 計 五百五十三名
 先シ 最近鹿沼町及黒磯方面ニ天然痘ノ発生シタメ本村ハ近村ニ
 其ノ救済ニ 二十五百余名ヲ 行レタ。七十才以下満一才以上ノ者テ
 受レタ。

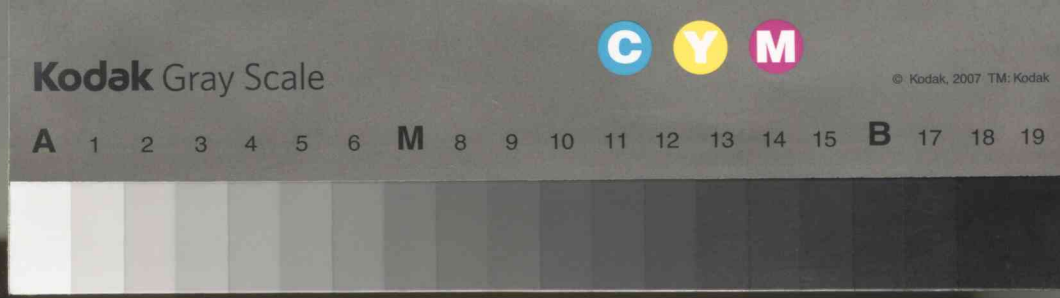
四 種痘

三 清潔法
 清潔法ハ毎年春秋二期ニ施行スル。春季ハ五、六月中秋季ハ十月中全
 村五百戸ガコレヲ実行スル。コノ際衛生組合ハ大イニ活動シ注意書
 ヲ配布シ或ハ廻状ヲマハシテ指導ト注意ヲ、衛生思想ノ普及ニ努力
 スルヲ以テ清潔施行ノ際、成績非常ニヨク臨検ノ結果手直ヲ命セラ
 レルモノ會テ一戸モナシ。又前年他染病患者ノ発生シタ地域ニ對シ
 テハ特ニ注意シ便所下水其ノ他不潔ノ所ニハ石灰乳其ノ他ノ薬品
 ヲ撒布シテ嚴重ヲ消毒ヲ行フ。

三 清潔法

場所ニ移動シタ赤痢流行、後ハ六、七、八、月ニ至リ扶斯患者ヲ出セシメテ
 今ヨリ至リニ至ル。赤痢ノ発生ハ三四ノ月ニ来入ルモノナク、全ク芝刈
 シキリテキルニ至ル。本村トシテ該ニ種痘ヲ行フノ際、病者皆治癒シ又年
 入ヲ要スル種痘ノ困リナシトモテアル。近不倍休病ニ付スル治療法、消毒此等大イニ注意シコレガ完
 全ヲ期スル故、他ノ伝染病ニ付テハ該患者ノ全治スル有様ナ
 アル。





五 衛生組合

本村ニハ早クウラ衛生組合ガ設立サレテ本々、シカシ今日ノ様ニ統
一シタ西大芦村衛生組合トシテ、モノデハナク各區別ノモノデア
タ、一區ノ衛生組合、二區ノ衛生組合トイフハツ、区ニ依リテ
織サレテ、各八ツノ組合ハ互ニ連絡ハ取ワテキタガ事業ヤ其ノ
他ニ幾分ノ相違ハアツタ

各組合ニハ一名宛ノ組長副組長ガアリ若干名ノ委員ガ置カレテア
ツ、是等ノ左役員ニハ区内ノ資産家徳望家等ガ選ニテ其ノ職ニ従事
シタ、是等ノ特色トスルトコロデアラウ、最モ重シクモハナラヌ公
衆衛生ガ充備ノ域ニ達シナイトイフコトハ、其ノ指導者ノ任ニアル組
長又副組長ノ衛生思想ニモシイ、ト熱心ノ度リナイ、ト又モウ一ツ
ハ地位ヤ名望ノ少ナイモノガ、職ニアルカラダイトイフ所カラ本村
ノ任ニアタリ、率先シテ範ヲ示シ以テ公衆衛生思想普及ニ努力シタ
其ノ効ノ今日ニ及シテキルコトハ、非常ニモ、デア
組織事業、他ノコトハ、現在ノ西大芦村衛生組合ト大差ナク唯統一
ニサレテ組長ガ支部長副支部長ト更シタモノデアラカラコレヲ略シ次
ニ現在ノ組合ヲ記スコト、スル

西大芦村衛生組合規約

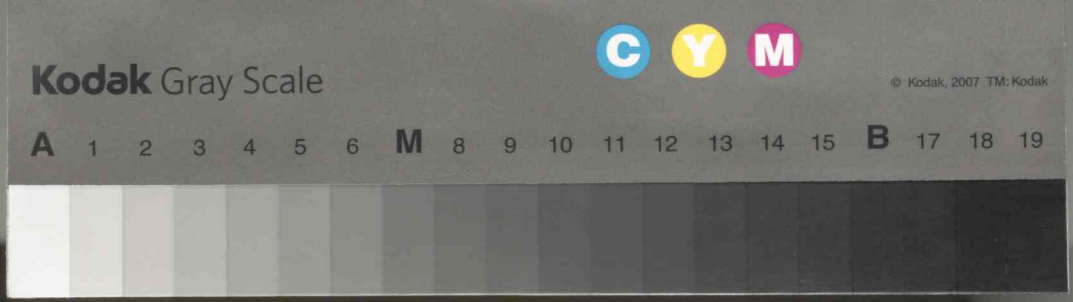
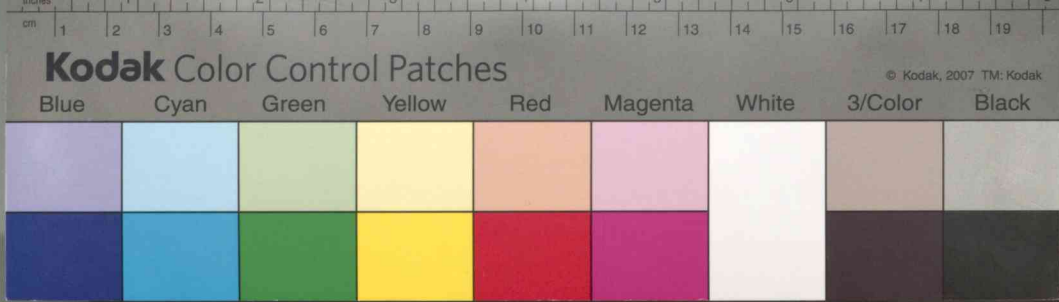
第一條 本組合ハ昭和二年三月十日本縣令第六号衛生組合規則ニ據リ
之ヲ設立ス

第二條 本組合ハ西大芦村一ツノ以テ区域シ西大芦村衛生組合ト稱シ左
ノ支区別ニ依リ

第一支区	第一支区
第二支区	第二支区
第三支区	第三支区
第四支区	第四支区
第五支区	第五支区
第六支区	第六支区
第七支区	第七支区
第八支区	第八支区

第三條 本組合ハ西大芦村ニ居住シ世帯主ヲ以テコレヲ組織シ付添
防救治身、他衛生ニ關スル事項ヲ協同維持スルタメ左記各事ヲ
一 衛生法施行ニ關スル事項
二 消毒法施行ニ關スル事項
三 持病者ノ隔離ニ關スル事項
四 伝染病ノ防制ニ關スル事項
五 衛生思想普及ニ關スル事項
六 飲料水ノ下水取除ニ關スル事項
七 其ノ他公衆衛生ニ關スル事項





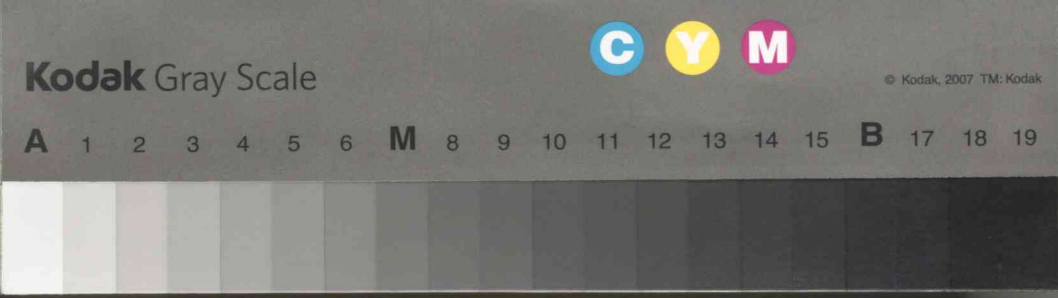
季次公ハ支那ニ因ルル所ノ事項ヲ審議ス。
 第十一條 定期ニ支那總領事館ニ報告スル事項左ノ如シ。
 一 支那年次及其中ノ前年ニ於ケル組合及支部ノ事業ノ概要其ノ他
 支那長ニ於テ何等ト認ムル事項。
 第十二條 支那長ニ於テ何等ト認ムル事項。
 第十三條 支那長ニ於テ何等ト認ムル事項。
 第十四條 支那長ニ於テ何等ト認ムル事項。
 第十五條 支那長ニ於テ何等ト認ムル事項。
 一 支那長ニ於テ何等ト認ムル事項。
 二 支那長ニ於テ何等ト認ムル事項。
 三 支那長ニ於テ何等ト認ムル事項。
 四 支那長ニ於テ何等ト認ムル事項。
 五 支那長ニ於テ何等ト認ムル事項。

第十六條 支那長ニ於テ何等ト認ムル事項。
 一 支那長ニ於テ何等ト認ムル事項。
 二 支那長ニ於テ何等ト認ムル事項。
 三 支那長ニ於テ何等ト認ムル事項。
 四 支那長ニ於テ何等ト認ムル事項。
 五 支那長ニ於テ何等ト認ムル事項。

第十七條 支那長ニ於テ何等ト認ムル事項。
 一 支那長ニ於テ何等ト認ムル事項。
 二 支那長ニ於テ何等ト認ムル事項。
 三 支那長ニ於テ何等ト認ムル事項。
 四 支那長ニ於テ何等ト認ムル事項。
 五 支那長ニ於テ何等ト認ムル事項。

第十八條 支那長ニ於テ何等ト認ムル事項。
 一 支那長ニ於テ何等ト認ムル事項。
 二 支那長ニ於テ何等ト認ムル事項。
 三 支那長ニ於テ何等ト認ムル事項。
 四 支那長ニ於テ何等ト認ムル事項。
 五 支那長ニ於テ何等ト認ムル事項。



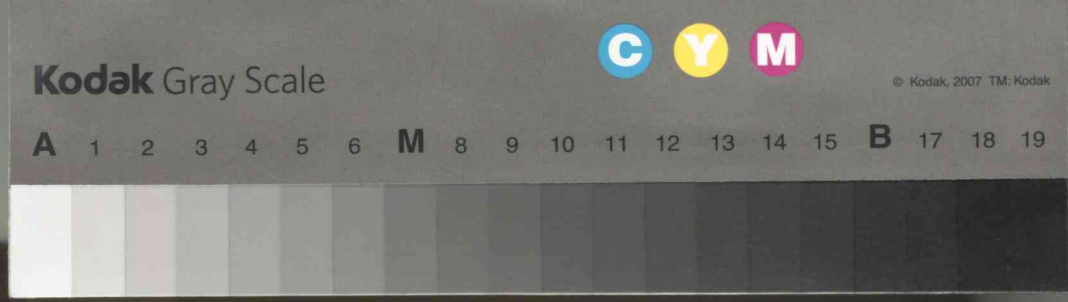
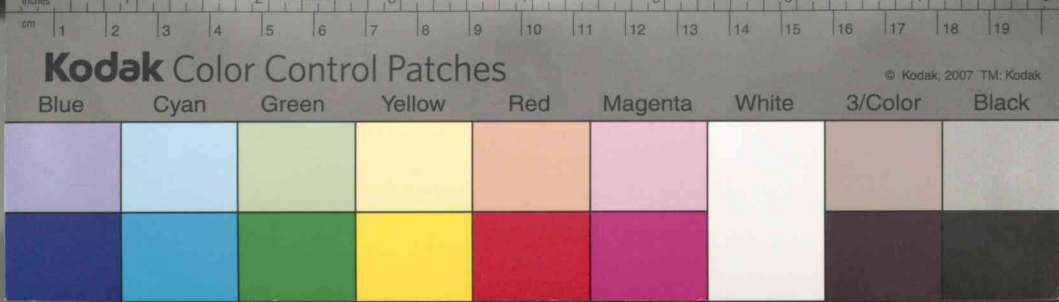


第十九條 本組合及各支部。於其事務上必要之費用。概由左ノ如シ。

一 組合ニ於テ支出スル事務費用。
 二 組合書記及備員ノ手取。
 三 組合ノ施設事業ニ關スル諸費。
 四 支部ニ於テ支出スル事務費用。
 五 支部書記及備員ノ手取。
 六 支部ノ施設事業ニ關スル諸費。

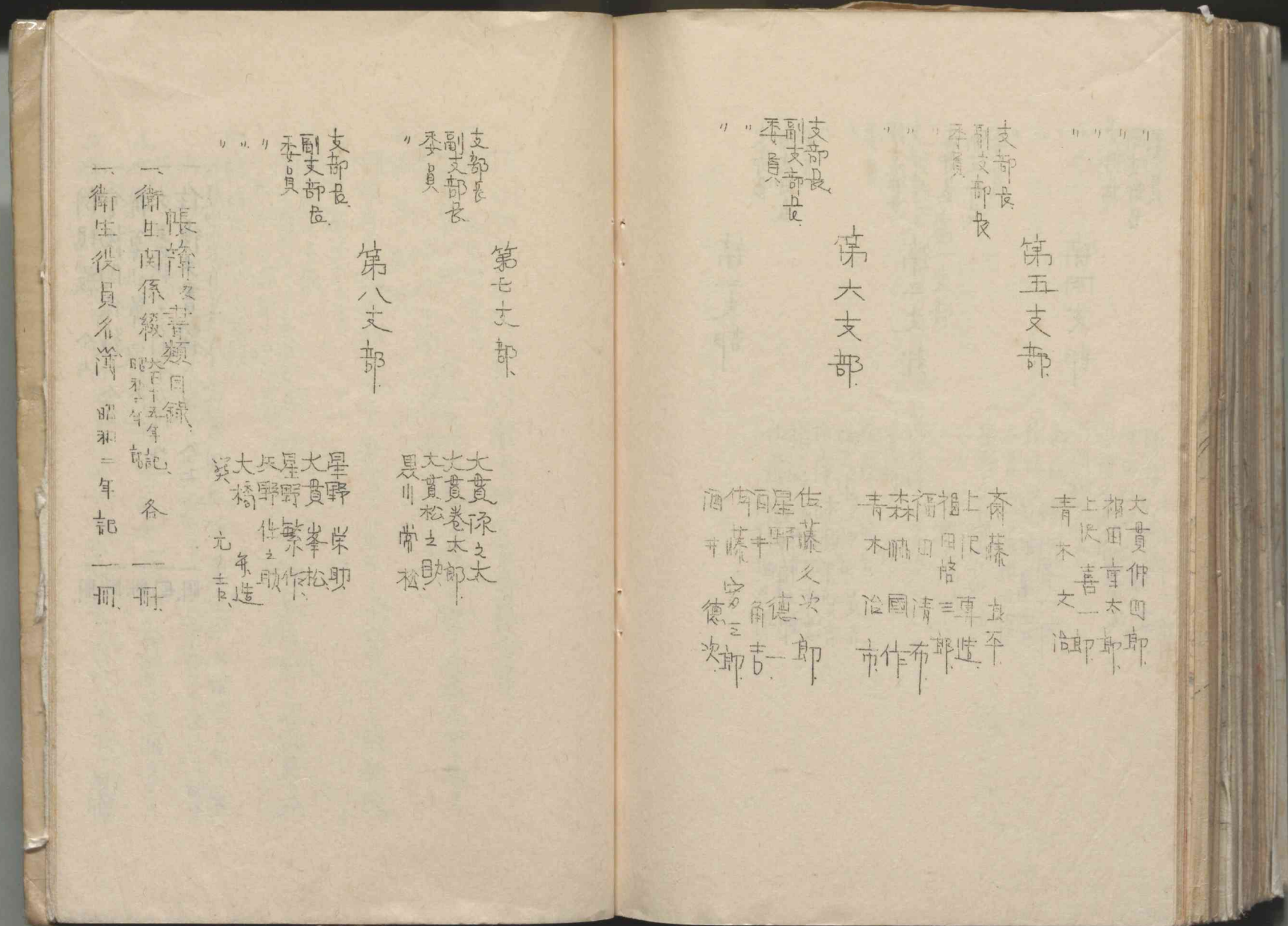
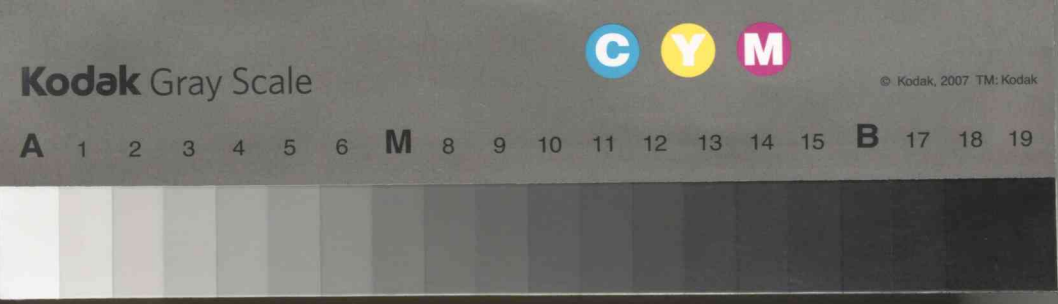
第二十條 本組合又各支部。經費ハ組合費。本組合員。負擔トシ一々年一戸ヨリ
 第二十一條 組合費ハ予算。定額所ヨリ組合員。負擔トシ一々年一戸ヨリ
 第二十二條 組合費。徴收員除キ本組合ニ於テ決定ス。
 第二十三條 本組合。財産ハ之ヲ財産簿ニ登錄シ組合長之ヲ管理ス但シ
 現金。貯蓄。貯金。支店。財産ハ分項ノ方法ニヨリ支部長之
 ヲ管理ス。
 第二十四條 組合長ハ次年。予算ヲ編成シテ定期評議員會ニ附議シ決定
 スルモノトス。
 第二十五條 支部。予算。決定スルモノトス。
 第二十六條 本組合。各支部。各人ノ書記。置キ之ニ給スル手取ハ左記ニヨリ
 組合書記。毎季手取
 支部書記。同
 第二十七條 本組合。會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ
 終ル。
 第二十八條 組合員ハ十四條。事項ヲ侵害セズ。監督官。吏。村吏員。又ハ
 本會役員ノ注意ヲ受ケルモ仍之ヲ背セザルコトヲ評議員會
 決議ヲ經テ二十日以下。過怠金ヲ徴收ス。
 附則。
 第二十九條 本規約。評議員會。於テ三分二以上ノ同意ヲ得ルニ限ラレハ其
 更スルコトヲ得ス。
 第三十條 本規約。成立當初。役員ハ設立委員之ヲ定メ其ノ任期ハ本規約
 第七條ニ依ル。
 第三十一條 本規約。認可ノ日ヨリ施行ス。





Handwritten Japanese text on two pages of aged paper, organized into sections labeled '第一支部' (First Branch), '第二支部' (Second Branch), '第三支部' (Third Branch), and '第四支部' (Fourth Branch). The text lists names and titles such as '支部長' (Branch Chief), '副支部長' (Deputy Branch Chief), and '委員' (Committee Member). The right page also includes the title '評議員' (Reviewer/Member of the Reviewing Committee).





一 衛生役員名簿 昭和二年記 一冊
 一 衛生関係簿 昭和五年記 各一冊

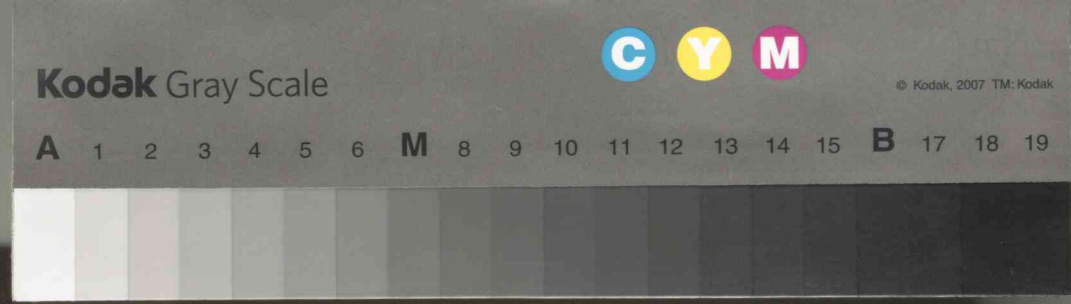
支部長 副支部長 委員
 第七支部
 支部長 副支部長 委員
 第八支部

大貫源之太 大貫卷之助 大貫松之助
 星野繁栄 大野繁栄 大野繁栄
 大野繁栄 大野繁栄 大野繁栄

支部長 副支部長 委員
 第五支部
 支部長 副支部長 委員
 第六支部

大貫伸四郎 大貫喜木 大貫文治
 上田喜木 上田喜木 上田喜木
 青木文治 青木文治 青木文治





昭和四年度西大芦村衛生組合事業報告書

一 衛生一般思想普及
 一般衛生思想普及ハ組合長並ニ各支那役員ト謀リ春秋二回ニ至リ
 清潔法ヲ実行シ衛生思想普及ニ努メタリ

二 糞尿ノ処理
 糞尿付イハ糞取紙ヲ各戸ニ無償員ニ配布シ各役員ヲトテ糞取除
 ニ督促セシメタリ

三 傳染病ノ予防
 傳染病發生ニツイテ家人並ニ飲料水、サウナ、家屋對シ各役員ト共
 ニ充分ナル消毒ヲ行ヒタリ

四 結核ノ予防
 結核ノ予防ニ對シテハ家屋開放特ニ奥座敷ノ障子ヲ外レ室
 内ノ採光、換氣、計リ、履具並ニ衣類等ガ日光消毒サレ、便所及風呂
 場等ニ付通氣ノ消毒ヲセリ

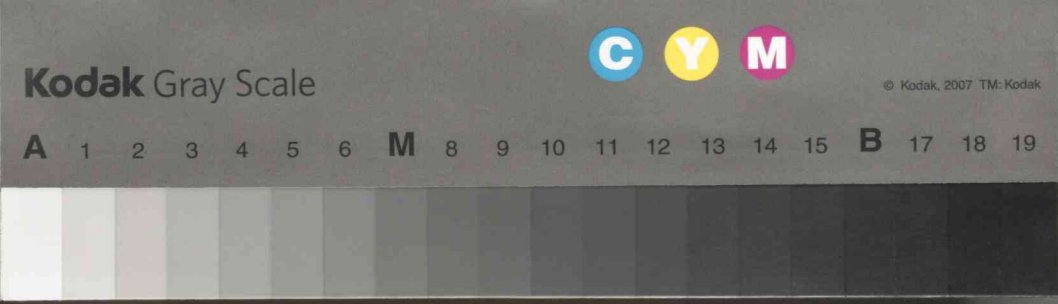
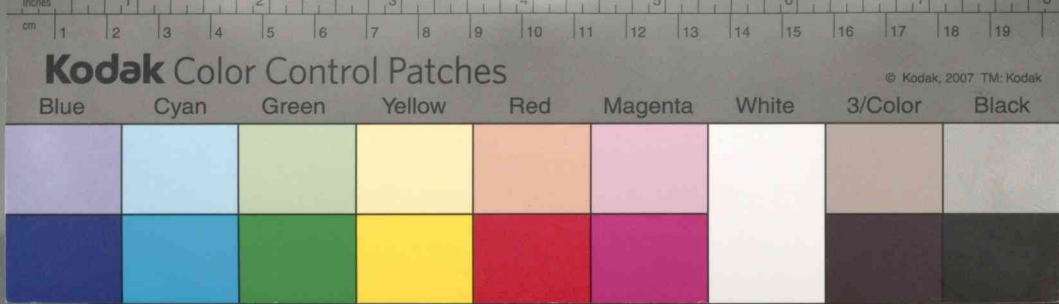
五 狂犬病ノ予防
 狂犬病ノ予防ニ對シテハ畜犬ノ繫留監督行健和ノ有無其他適當ナル
 方法ヲ行ヒタリ

六 衛生役員ノ常ニ受持區域ヲ檢病的ナ數調査シ思想普及ヲ遺憾
 ナリ行セリ

例規綴 全上
 會議關係綴 全上
 豫算決算綴 全上
 女書收發件名簿 全上
 住復文書綴 全上
 夏知各戸ノ衛生思想普及ノ爲メ

冊冊冊冊冊





性別	検査人員	有卵實數	卵保有者	蝸虫卵	三指腸虫	蝸虫
男	二九二	一〇八二	一〇三五	七八		四二八
女	二六五	一〇九一	一〇二八	四〇		四二八

検査成績

三 驅除状況

1 蝸虫卵保有者 蝸虫 對シテ八海人 廿二千六十三人ニ
 服薬セシム。
 2 三指腸卵保有者 十八人ニ對シテハネマトル 服薬セシム。

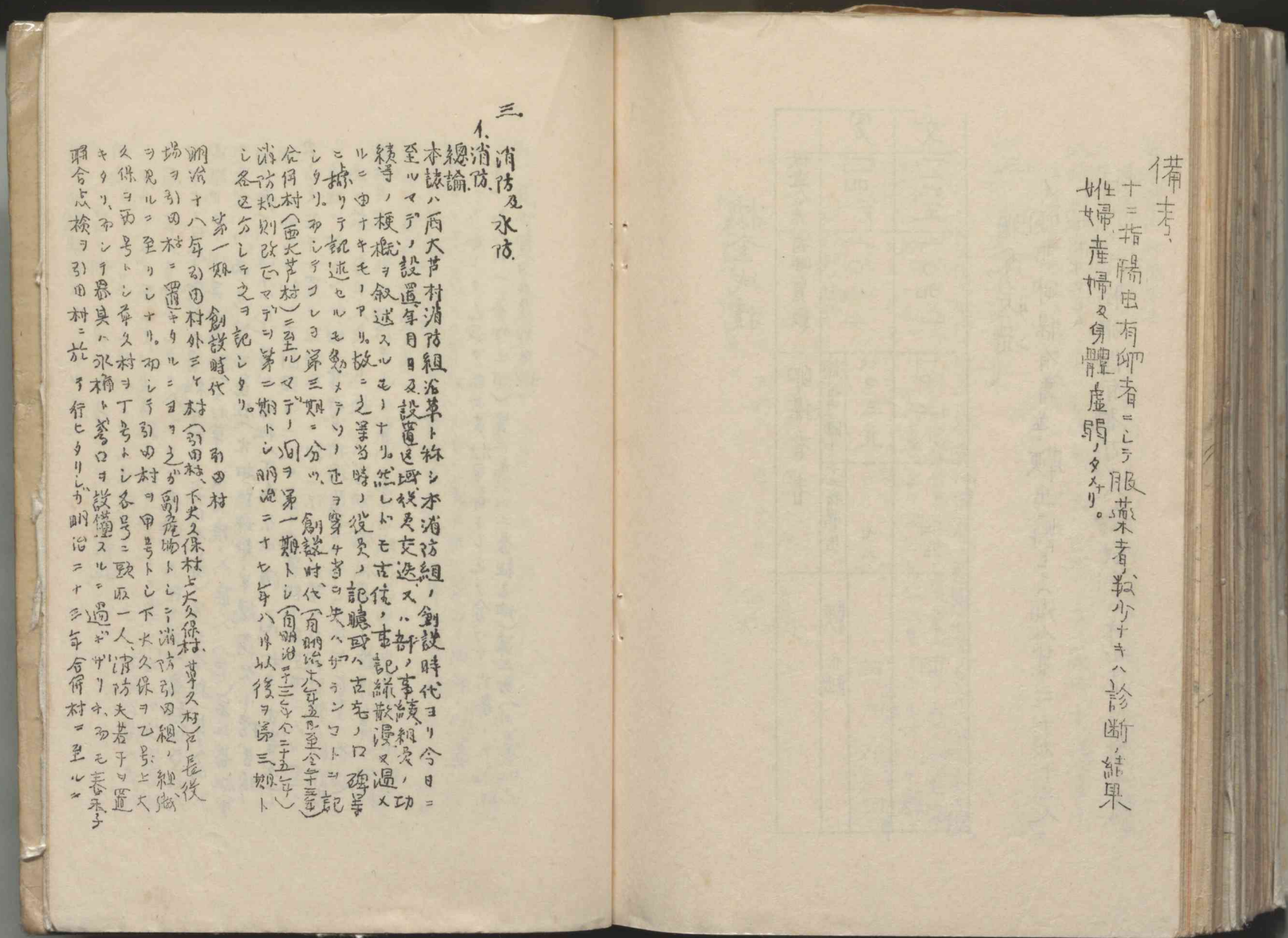
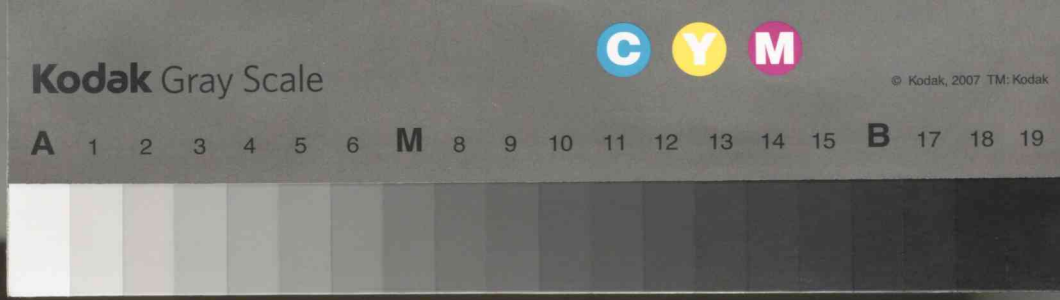
寄生蟲驅除事業

七 腸壁扶斯豫防法
 賜室扶斯豫防ニツイテハ本縣ヨリ予防液八場ヲ請ホシ四百人ニ對シ
 予防液射ヲ行ヒ予防上遺憾ナキニ努メタリ。
 八 蚊防方法ニツイテハ常ニ各役員ト夫ニ調査シテ其ノ家内ノ事情ニヨリ
 予算ノ範圍内ニ於テ扶助セリマシ。

寄生由リ如何ノ心身ノ發育及健康ニ悪影響ヲ及ボルカハ今更ニ言フ俟
 タナシ。今回西大芦村衛生組合今年ノ事業、一ツトシテ実施生虫ノ
 駆除ヲ村民一統ニ行フ計畫ヲ立テ昭和七年三月十四日付ニテ縣ニ
 申請シタトコロ今月二十二日認可アル直ニニシテ準備整ヒ仕事
 ニ着手シタリ。

可検物ノ送附 四月三日ヨリ今月十日迄
 駆除日 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十日
 結果左ノ如シ。
 五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十日
 両校





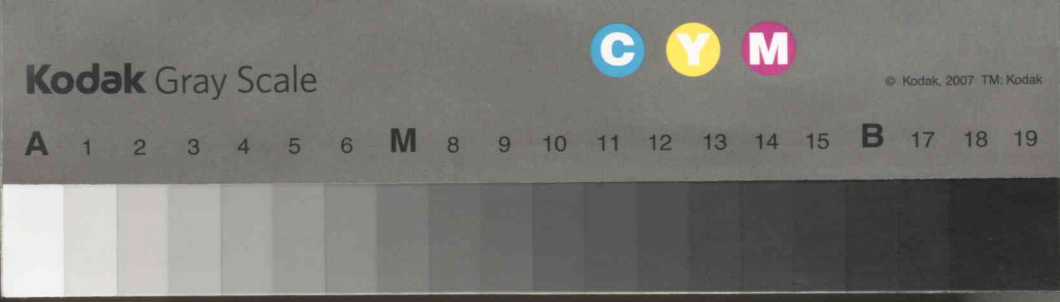
三
1. 消防及水防

本誌ハ西大芦村消防組沿革ト録シ本消防組ノ創設時代ヨリ今日ニ至ルマデノ設置年月日及設置区域ノ交代又ハ新ノ事業ノ進展ノ功績等ノ梗概ヲ叙述スルモノナリ然レモ古往ノ事蹟ノ記載又過ルニ由リテ叙述セルモノモ多ク之等當時ノ役員ノ記録或ハ古老ノ口述等ニ據リテ記述セラルルモノナリ正ヨリ穿々考テハハカランコトヲ記シタリ初シテコレヲ第一期トシ分ク創設時代(明治十三年至二十五年)倉何村(西大芦村)ニ至ルマデ第二期トシ(明治二十五年至三十二年)消防規則改正マデヲ第三期トシ(明治三十二年以後)トシテ記シタリ

第一期 創設時代 前田村
明治十八年(前田村)外ニヤ村(引田村)下久保村上久保村等ノ村長役場ヲ引田村ニ置キタルニヨリ之ガ副産物トシテ消防引田組ノ組織ヲ見ルニ至リシナリ初シテ引田村ヲ甲号トシ下久保ヲ乙号トシ又併ヨリ丙号トシ存久村ヲ丁号トシ各号ニ頭取一人消防夫若干ヲ置キタリ初シテ農具ハ水桶ト爲口日設置スルニ過ガカリキ初シテ春來子聯合点檢ヲ引田村ニ於テ行ヒタリ初シテ明治二十三年倉何村ニ至ルマ

備考
十三指陽虫有卵者ニシテ服蔽者、幼少ナキハ診斷結果
姓婦、産婦及身體虛弱ノタメリ。





及日分譲解散ヲナシテナリ。
 明治二十三年西大芦村保村草久村ノ三ヶ村合併西大芦村トナリ。及西大芦村消防組ノ設置ヲナスニ至リ。初シテ設置区域ヲ西大芦村全部トシ之ヲ合テ七番組ト入。即チ第一番組(西大芦村大字大保全部)第二番組(合村大字上大保全部)第三番組(草久内下内内倉小川(西大芦)第六番組(合村草久内上鹿ノ入(八咫)第五番組(白手落系(河内小庄)第七番組(下向(不山)滝(花)松(古)津(系)ノ七トシテ初シテ組ニ正副頭各一人ヲ置テ各番組ニ副頭各一人ヲ置テ消防支若干ヲ置テ正副頭各一人ヲ置テ各番組ノ消防事務ヲ統制シ副頭各一人ヲ置テ於テ一切ノ事務ヲ指揮監督ス。而シテ毎年春季ニ番組ノ地ニ於テ番組人員ノ点検アリ。消防組ノ機械器具ノ設備ハ第一組ニ機械器具表ノ物ハ明治二十七年八月消防組創設スルニ至リ。本組消防組ノ整備スルニ至リ又。

第五部(川五番組七番組ヲ合併シタル区域)第六部(同七番組区域)トシテ組ニ組頭一人ヲ全部ニ部在一人小頭二人力更四人消防手若干名ヲ置テ消防組ノ組織ニ但シテ全部ノ事務ヲ指揮監督ス。而シテ毎年春季ニ番組ノ地ニ於テ消防組人員ノ点検アリ。消防組ノ機械器具ノ設備ハ第一組ニ機械器具表ノ物ハ明治二十七年八月消防組創設スルニ至リ。本組消防組ノ整備スルニ至リ又。

明治二十七年八月消防組創設スルニ至リ。本組消防組ノ整備スルニ至リ又。

明治二十七年八月消防組創設スルニ至リ。本組消防組ノ整備スルニ至リ又。

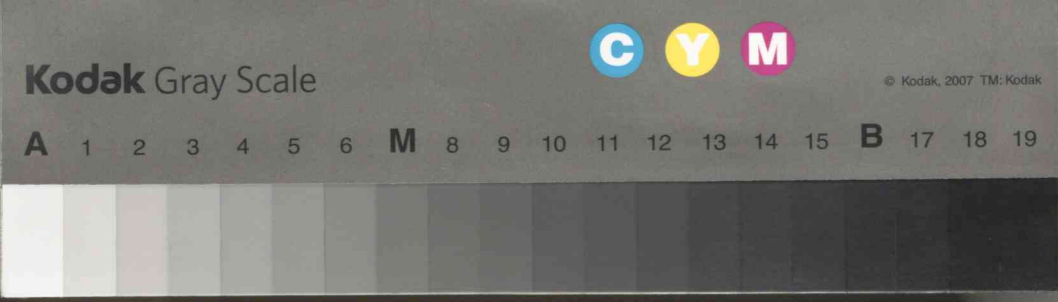
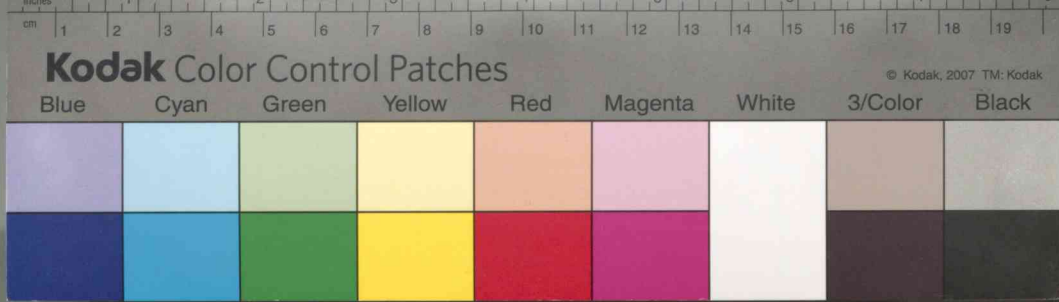
明治二十七年八月消防組創設スルニ至リ。本組消防組ノ整備スルニ至リ又。

後引村	引村	地三	引村	引村	引村
下久保村	下久保村	三	三	三	三
引村	引村	引村	引村	引村	引村
引村	引村	引村	引村	引村	引村

第一組
 明治二十七年五月設置

甲引村 一月	乙引村 一月	丙引村 一月	丁引村 一月
頭取 一	頭取 一	頭取 一	頭取 一
頭取 一	頭取 一	頭取 一	頭取 一
頭取 一	頭取 一	頭取 一	頭取 一





西大芦地区
西大芦小学校所蔵資料

西大芦地区
西大芦小学校
西大芦地区
西大芦地区

計	大部	中部	西部	南部	東部	北部	東部
八	一	一	一	一	一	一	一
二	三	五	五	三	三	三	三
二	三	四	四	三	三	三	三
四	四	五	五	三	三	三	三
六	四	五	五	三	三	三	三

西大芦地区
西大芦小学校
西大芦地区
西大芦地区

第一番組	第二番組	第三番組	第四番組	第五番組	第六番組	第七番組
一	一	一	一	一	一	一
二	二	二	二	二	二	二
三	三	三	三	三	三	三
四	四	四	四	四	四	四
五	五	五	五	五	五	五
六	六	六	六	六	六	六
七	七	七	七	七	七	七
八	八	八	八	八	八	八

